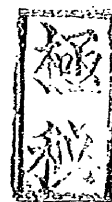


Handwritten signature or mark



昭和十四年四月十日

京水鎮缺潰口擴大要領

杉山部隊本部



1084

本研究ハ軍囑託内務技手土谷菊雄及建設總署技士高村克巳ヲシテ研究セシメタルモノナリ參考トシテ茲ニ印刷ス

配付區分

方面軍參謀部	六部
尾高部隊	六々
第二野鐵(青村部隊ヲ含ム)二部	
建設總署日系官吏	二部
井關部隊	二々
豫備	二々
計	二〇部

一 判 決

雨期洪水ニ對シ舊黃河ヲ敵ノ謀略ニ基ク破堤ノ被害ヲ極小トナシ且黃河
新開鐵道橋保全ノ爲舊黃河流下水ヲ制限スル目的ヲ以テ京水鎮缺潰口約
一料下流ニ新ニ五〇〇米ノ缺潰口ヲ開鑿スルヲ要ス

二 理 由

本年度黃河洪水流量ハ每秒一五、〇〇〇立方米ト豫想セララル、モ舊黃河
道流下水ヲ低水敷以內ノ流量トシ敵ノ謀略ニ基ク破堤ノ被害ヲ極少ナラ
シメ且黃河新開鐵道橋ノ保全ノ爲ニハ現在黃河エハ每秒三、〇〇〇立方
米以上ノ流水ノ流下ヲ許容シ難シ昨年六月黨軍ノ缺潰セル黃河堤防ノ內
三劉砦附近ニ於ケルモノハ開封防禦ノ必要上既ニ締切工事ニ着手シ近ク
完成ノ遲ヒニアリ京水鎮附近ニ於ケルモノハ未タ何等ノ處置ヲモ講セス

現在缺潰幅概ネ三〇〇米ニシテ平水流量ハ總テ同所ヨリ南流シテ淮河方面ニ流下シ、アリ、本年夏季ニ當リ黃河洪水流量每秒一五、〇〇〇立方
米ニ達セハ本箇所ヨリノ流量ハ每秒六、〇〇〇立方メートルト豫想セラレ舊
黃河流下水量ハ尙毎秒九、〇〇〇立方メートルニ達スヘシ即毎秒六、〇〇〇立方
米ノ過剰水量ヲ舊黃河ニ流下スルヲ要シ謀略ニ基ク破堤ニヨル被害ノ擴
延ハ素ヨリ新開鐵道黃河橋梁ヲ流失セシムルニ到ルヘシ之レ決潰口ノ擴
張ヲ要スル所以ナリ水理學ニ基キ前記過剰流量每秒六〇〇〇立方メートルノ爲ニ
ハ尙五〇〇米程度ノ缺潰口ノ擴張ヲ必要トス、其ノ地點ヲ京水鎮現缺潰
口ノ擴張ニヨルヲ最モ有利ナリトシ之カ爲メニハ同缺潰口ヲ更ニ東側ニ
擴張スルヲ第一案トスヘシ然レトモ鄭州ヲ確保セントスル企圖旺盛ナル
ヘキ敵軍カ京水鎮缺口ニ工事着手スルヲ看取セハ修復ト誤認シ妨害ノ企
圖ニ出ツルヘク然ルトキハ本地點ハ敵ニ近接シ小銃彈ノ被彈下ノ作業ト
ナリ多數ノ人夫ヲ使用スル工事ノ施工ヲ著シク阻害スルニ到ルヘシ偵察
ノ結果ニヨルニ三劉砦ヨリ京水鎮ニ到ル間ニ於テ缺口ニ適スル位置ハ京
水鎮缺潰口下流約一杆ニ互ル區間トス故ニ附圖ニ示ス位置ヲ適當トスヘ

シ
缺口新設ノ爲孰ルヘキ手段ハ開鑿ニヨリ或ハ爆破ニヨル等ノ手段アルヘ
キモ洪水ハ舊黃河ヲ直流通セントスルニ鑑ミ新開鐵道防護ヲ確實ナラシム
ル爲開鑿ニヨリ、流路ヲ定メ要スレハ本流ノ低水敷ノ阻止等方法ヲ講ス
ルヲ要ス之レ開鑿ニヨルヲ第一案トスル理由トス

ニ處理要領

五月上旬地元民ヲ使用シテ別紙要圖ノ如ク黃河南岸堤ニ五〇米間隔ニ底
幅一〇米ノ水路ヲ一〇箇所開鑿シ以後流水ニヨル自然擴大ニ依リ洪水期
迄ニ所期ノ幅員ヲ得ントスルモノナリ
之レニ要スル勞力、工事期日、經費、作業要領左ノ如シ

掘鑿土量

四〇、〇〇〇立方米（一ヶ所四〇〇〇立方米）

人夫一人一日當作業能力

二立方米（掘鑿取捨共）

所要延人員

二〇、〇〇〇人

作業日数ト作業人員トノ關係

一日作業人員	作業方法	所要日数	摘要
一、〇〇〇人	晝夜二交替	一〇日	日数過大
一、五〇〇人	〃	七日	
二、〇〇〇人	〃	五日	希望スル所ナリ

經費

二萬圓トス

作業要領ハ開鑿路十本ヲ同時ニ着手シ流水ノ疏通シ得ル如クシ爲シ得レハ導水堤ノ築設、舊黄河低水敷ノ阻絶ヲ實施ス

以上